

解答例の使い方

完成文の暗記ではなく、条件と伝わり方を確認

答えを写す前に、自分の文章と例の違いを見つけましょう。別の経験や立場でも、問いに答え、条件を満たして説明できていれば認められます。

各問の「確認基準」は、この教材の振り返り用です。自分・読み手・先生が、それぞれ「できた／一部できた／直したい」で見取り、次に直す点を一つ決めましょう。合計点や全国共通の合格基準を示すものではありません。

作文例は、問題と同じ20マス・9mmの原稿欄に配置しています。「使用マス数」は段落頭の空きや途中の改行後までの空きを含み、本文だけの文字数とは別に表示します。数え方は学習ポイントと問題の冒頭を確認してください。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問1 単位と対象を押さえる

解答例 ①最も多いのは物語で、十二人だった。

②調査の対象は、三年一組の三十人である。

考え方 一人が一つ選ぶ調査なので、合計は三十人です。「全校の生徒」と対象を広げてはいけません。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 最多の項目と人数が正しい。
- ・ 対象を三年一組の三十人としている。
- ・ 人数と冊数を混同していない。

問2 差と全体を計算する

解答例 ①八回多い。

②合計は六十二回である。

③同じ人が複数回利用した可能性があるため、実際の人数は分からない。

考え方 差は $26 - 18 = 8$ 、合計は $18 + 18 + 26 = 62$ です。延べ回数を人数に置き換えないようにします。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 差が八回になっている。
- ・ 合計が六十二回になっている。
- ・ 延べ回数では実人数が不明だと説明している。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問3 人数と割合を区別する

解答例 一組は $10 \div 20 = 0.5$ で五十パーセント、二組は $10 \div 40 = 0.25$ で二十五パーセントである。参加率が高いのは一組である。

考え方 どちらも参加者は十人ですが、分母になる学級人数が違います。一組の参加率は二組より二十五ポイント高いとも表現できます。

別の答え方 「一組は二人に一人、二組は四人に一人」と説明してから、各参加率を書いてもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・分母に各学級の全員数を使っている。
- ・一組五十パーセント、二組二十五パーセントと計算している。
- ・人数が同じことと参加率が同じことを区別している。

問4 事実と推測を仕分ける

解答例 Aは事実、Bは推測である。Bは「昼休みの開室時間が延びたことが、貸出冊数の増加に関係した可能性がある」と直せる。

考え方 Aは $81 - 60 = 21$ という計算で確かめられます。Bは原因の断定です。貸出冊数が増えた別の理由も考えられます。

確認基準（この教材での目安）

- ・Aを事実、Bを推測としている。
- ・貸出冊数の増加自体を疑う文にしていない。
- ・開室時間と増加の因果関係を断定していない。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問5 合計を超えた理由を読む

解答例 一人が二つまで選べるため、同じ人が二つの項目に数えられる。机の増設を選んだ三十人の中には別の項目も選んだ人がいる可能性があるので、「増設だけ」とは言えない。

考え方 合計六十五は回答した項目の延べ数で、回答者数ではありません。複数回答の表では、項目どうしの重なりにも注意します。

確認基準（この教材での目安）

- ・一人二つまでの複数回答に触れている。
- ・項目の重なりを説明している。
- ・排他的な希望だと断定していない。

問6 答えられない問いを見抜く

解答例 唯一の原因とは結論できない。第二週は校庭を使った人数も雨天日数も違うからである。例えば、利用人数や天候が近い週を比べ、清掃当番を増やした前後のごみの量を確認したい。

考え方 回収したごみの量は二キログラム減りましたが、利用人数や天候などの条件も変わっています。回収量は、発生したごみの総量や回収後に残った量とは別です。この資料だけでは、発生量が減ったかどうかや、その原因は特定できません。追加調査をしても、別の要因が残る可能性があります。

別の答え方 ごみの持ち帰りを呼びかけたか、行事があったかを確認する案でもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・清掃当番の増員が唯一の原因だとは言えないと判断している。
- ・人数または天候の違いを根拠にしている。
- ・追加調査が原因の検討につながっている。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問7 根拠と限界を備えたメモ

解答例 ①来館者二十人中十二人が相談席を希望した。

②来館しなかった人の希望は分からない。

③全校調査の後に試行し、利用者への影響を確かめる。

考え方 モデルは相談席を希望する人数を使っていますが、希望しない五人や、どちらともいえない三人に着目した慎重な提案も成立します。いずれも対象を正確に示し、一日だけの来館者調査を全校の結果として扱わないことが大切です。

別の答え方 先に全校生徒への調査を行う案も、限界に対応していればよい。

別の答え方 「回答者二十人のうち五人は希望していない」を根拠に、理由を追加で聞き、静かな読書への影響を確認する慎重な提案もよい。

別の答え方 「回答者二十人のうち三人はどちらともいえない」を根拠に、相談席の具体的な使い方を示して意見を聞き直す提案もよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・選んだ人数と調査の対象を正確に示している。
- ・対象や調査日の限界を挙げている。
- ・次の一步が限界に対応している。

問8 人数の違いから小さく提案する

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 188／本文の文字数 175（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	私	は	、	水	曜	日	の	開	室	を	試	す	こ	と	を	提	案	す	る	。	20
調	査	で	は	、	利	用	を	希	望	す	る	人	数	が	月	曜	日	は	八		40
人	、	水	曜	日	は	十	八	人	で	あ	り	、	水	曜	日	の	方	が	十		60
人	多	い	。	希	望	に	合	う	日	に	開	け	ば	、	利	用	し	や	す		80
く	な	る	と	考	え	る	。														100
	た	だ	し	、	対	象	は	三	年	一	組	だ	け	で	、	希	望	者	が		120
実	際	に	来	る	と	は	限	ら	な	い	。	ま	ず	全	学	年	に	希	望		140
を	聞	き	、	担	当	者	の	負	担	も	確	か	め	た	い	。	そ	の	上		160
で	一	か	月	試	し	、	実	際	の	利	用	人	数	を	調	べ	て	継	続		180
を	判	断	す	べ	き	だ	。														200

考え方 第一段落で二つの数値と差を提案に結び付け、第二段落で調査対象と実際の利用との違いに触れています。希望人数だけで確実な効果を約束しない点も重要です。

別の答え方 月曜日を維持しつつ水曜日を追加する案でも、担当者の負担と調査の限界を検討していればよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・人数を正しく引用している。
- ・提案と数値のつながりが明確である。
- ・三年一組だけの調査などの限界を示している。
- ・実行や検証の方法が具体的である。

問9 変化と原因を分けて提案する

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 189／本文の文字数 181（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	表	で	は	、	残	食	の	一	日	平	均	が	四	キ	ロ	グ	ラ	ム	か	20
ら	二	キ	ロ	グ	ラ	ム	に	減	っ	て	い	る	。	し	か	し	、	献	立	40
も	欠	席	者	数	も	違	う	た	め	、	盛	り	付	け	方	を	変	え	た	60
効	果	だ	け	だ	と	は	言	い	切	れ	な	い	。							80
	私	は	、	こ	の	方	式	を	し	ば	ら	く	試	し	、	献	立	や	出	100
席	人	数	も	記	録	し	た	い	。	同	じ	よ	う	な	献	立	の	日	に	120
つ	い	て	、	一	人	当	た	り	の	残	食	量	を	比	べ	る	と	判	断	140
し	や	す	い	だ	ろ	う	。	ま	た	、	量	が	足	り	な	か	っ	た	人	160
が	い	な	い	か	も	聞	き	、	残	食	の	少	な	さ	だ	け	で	決	め	180
な	い	よ	う	に	し	た	い	。												200

考え方 四から二への変化は事実です。一方、方式が減少の原因だという説明はまだ確定できません。一人当たりの量と満足度の両方を確かめる提案になっています。

別の答え方 すぐに全校へ広げず、一学級で試す提案もよい。

別の答え方 一人当たりの量だけでなく、追加を待つ時間を調べてもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・平均残食量を正確に述べている。
- ・方式変更だけを原因にしていない。
- ・献立や人数を考慮した検証を提案している。
- ・必要な食事量への配慮がある。

問10 異なる集団の数字を比べる

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 186／本文の文字数 181（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	土	曜	企	画	の	継	続	を	希	望	す	る	割	合	は	、	中	央	会	20
場	が	二	十	人	中	十	二	人	で	六	割	、	東	会	場	が	十	人	中	40
八	人	で	八	割	で	あ	る	。	希	望	者	の	人	数	は	中	央	会	場	60
が	多	い	が	、	割	合	は	東	会	場	の	方	が	高	い	。				80
	私	は	、	企	画	を	続	け	な	が	ら	参	加	し	な	か	っ	た	中	100
学	生	に	も	希	望	を	聞	く	べ	き	だ	と	考	え	る	。	今	回	の	120
対	象	は	参	加	者	だ	け	な	の	で	、	地	域	全	体	の	希	望	と	140
は	限	ら	な	い	。	曜	日	や	会	場	ま	で	の	距	離	も	尋	ね	、	160
参	加	し	に	く	い	理	由	を	確	か	め	て	か	ら	開	催	方	法	を	180
見	直	し	た	い	。														200	

考え方 分母を確かめ、人数の多さと割合の高さを分けています。参加者だけの調査から地域全体へ結論を広げず、不参加者の事情を調べる提案にしています。

別の答え方 次回を小規模な試行にして、不参加者への調査を先に行う案もよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・中央六割、東八割と正しく求めている。
- ・人数と割合の比較を区別している。
- ・参加者だけの調査の限界を示している。
- ・提案が追加調査につながっている。